

東京名勝銀座之通煉化石商家之図 (小室家6373)



学問ノススメ (中川家2894~2904)



【資料解説】

三枚続、三代広重の作。1874(明治7)年発行。

煉瓦造り、洋風新装の銀座通りは、文明開化の見本として、政府が力を注いだものでしたが、たちまち東京の新名所となり、都市に住んでいる人ばかりでなく、上京してくる人々の目をひきました。この絵の中にも、わらじばきの見物人が見えます。そして続々と版行された銀座の錦絵は東京みやげとなって、開化の様子を地方まで伝えられました。

参考文献：講談社「錦絵幕末明治の歴史⑥」

この錦絵の所有者である小室家は、比企郡番匠村(現ときがわ町)で江戸中期頃から代々医業を営んでいました。収蔵資料には典籍や日記などが多く、世の中の出来事に敏感な家柄でありました。この文明開化錦絵も東京の様子を伝えるものとして購入されたと思われます。

【資料解説】

福澤諭吉著、慶應義塾出版局刊。

1872(明治5)年2月に初編を出し、1876年11月の17編まで断続的に刊行され、1880年7月に一冊の合本として刊行されました。各編は10枚内外の小冊子です。巻頭の「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと云えり」をはじめとする数々の警句などが非常に反響を呼び、合本ができるまでに偽版も含めて発売70万冊に達し、ベストセラーとなりました。

参考文献：吉川弘文館「国史大辞典3」

文書館には、中川家(現春日部市)、小室家(現ときがわ町)、山口家(現春日部市)、川鍋家(現神川町)、小林(正)家(現松伏町)、根岸(浩)家(春日部市)、野中家(現熊谷市)、西角井家(現さいたま市)の8家の文書として収蔵されています。このことから当時のベストセラーであったことがわかります。